

涼水七坂

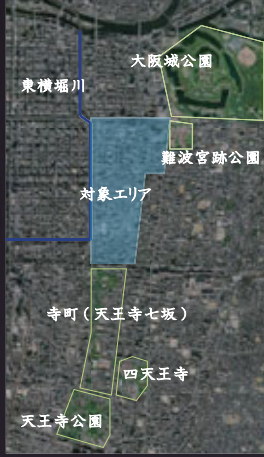
打ち水の涼を感じながら夕暮れ時の上町台地を巡る

大阪ではヒートアイランド現象が顕著に発生しており、快適な都市生活を営むためにその対策が急務となっている。ヒートアイランド現象は都市・地域レベルで発生しており、その対策も地域レベルでの取り組みが必要であると言われている。地域からヒートアイランド対策を考えると、それは単に気温を低下させるという技術的、物理的な視点だけではなく不十分であり、その地域に住む人々の行動やその土地の持つ歴史や文化といったものに着目するというランドスケープの視点が不可欠となる。言い換えれば、そのような視点からヒートアイランド対策をおこなうことは、人々の行動を変化させ、その地域のもつ歴史や文化を再度振り起こし、活性化させることにもつながる。このような考えのもと、ランドスケープの視点から大阪のヒートアイランド対策のための都市デザインを提案したい。

【対象エリア選定】

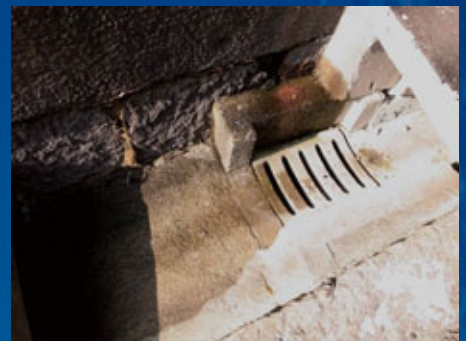
対象とするのは、中央通、上町筋、谷町筋、千日前通及び東横堀川に囲まれた上町台地西側斜面である。

上町台地上には、大阪城公園および難波宮跡公園、さらに寺町の斜面林、四天王寺、天王寺公園などのまとまった緑が存在する。しかし、中央通から千日前通にかけての市街地には涼しさを感じることでできる大規模な緑地は少ない。東横堀川についても親水性に乏しく、涼空間としては機能していない。この空白地帯となっている市街地を対象とすることで、大阪のまちに帯状の水と緑の涼空間を形成することが可能である。



■現況

対象エリアは、緑地が少なく、コンクリートやアスファルトなどの人工物に覆われている面積が大きいため、気温が高くなっていると考えられる。また、対象エリア西側を流れる東横堀川も市街地や人々の生活との関係は希薄で、涼空間として機能していない。しかし、上町台地の西側斜面にあたるため、坂や階段、崖といった地形が多数見られ、その地形に合わせて多数の路地や溝が存在する。そこに住宅から商業施設、業務施設など多様な施設が立地し、また寺社仏閣や古い町並みも残っており、文化都市としてのポテンシャルの高い地域であると言える。また、上町台地は水との関連が深く、かつては高津宮境内には梅乃川が流れていたほか、対象エリア南の天王寺七坂付近では井戸や湧水の名残が見られる。



■コンセプト

上町台地の斜面を利用し、夕暮れ時に貯留雨水を流すことで、市街地全体に打ち水効果による涼しさを生み出す。市街地を流れた水は東横堀川へと流れ込み、まちと川との関係性が回復する。人々は涼を感じる大阪のまちで、風情ある七つの坂を巡る散策に出掛ける。その道中では、散策をしたり、水を流したりする人々のあいだで関係性が生まれ、新たな大阪の都市文化が創り出されていく。

涼感

貯留雨水を夕暮れ時に路面や水路に放水し、打ち水効果による涼しさを生み出す。路面温度の低下や気温の低下だけでなく、流水の視覚的、聴覚的、触覚的效果など心理的な効果も期待でき、五感で涼を感じることができる。

水系

路面に流された水は、支流から本流へと川の水が流れていくように、小路から大通りなどへと流れ、最後は東横堀川へと注ぎ込む。街路を利用した水系が現れ、失われていたまちと東横堀川との関係性が見えるかたちで現れる。

関係

対象エリア内の数ある坂のうち、特に風情ある七つの坂を「涼水七坂」として設定し、既存の「天王寺七坂」とあわせて上町台地の名所とする。人々は涼しくなった大阪のまちで、これらの坂を巡る散策に出掛ける。その道中では、様々な出会いが生まれ、人と人、人とまちとの新たな関係性がつむがれていく。

■システム

①降雨・雨水貯留

屋根や屋上、路面に雨が降る。降った雨は貯留槽や池に貯留される。

②放水

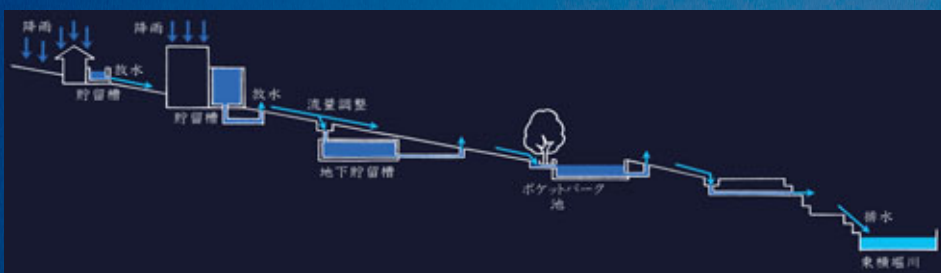
毎日夕暮れ時の数分間、路面や水路に放水される。坂を利用するため、ポンプなどの動力を問わずに広範囲に水を流すことが可能である。

③流量調整（排水・再貯留）

路面流水は、地下貯留槽やポケットパークの池に排水・再貯留されることにより流量が調整される。再貯留された水は次の放水に再利用される。

④排水

放水された雨水は、再貯留・再放水を経て、最終的に東横堀川へと流れ込むことにより排水される。市街地の水系と東横堀川とのつながりが見える形で現れる。



■3つの効果

●物理的效果

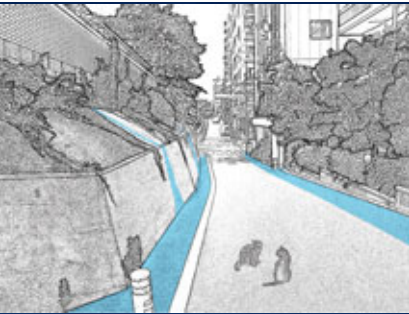
- ・地表面温度の低下
- ・熱輻射の減少
- ・気温の低下
- ・温度差による風の発生

●心理的效果

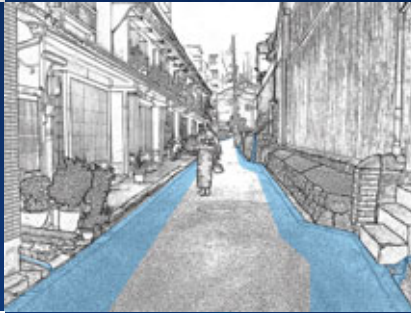
- ・流水を見ることで涼を感じる視覚的效果
- ・せせらぎの音を聴くことで涼を感じる聴覚的效果
- ・水を触ることで涼を感じる触覚的效果

●社会的効果

- ・まちと川との水を介したつながりの再認識
- ・涼水七坂を巡る散策などの誘発
- ・散水時のご近所同士や散策者との間での会話の発生
- ・住民のまちに対する愛着の涵養
- ・流水を利用した子供の遊びの発生
- ・都市の風物詩・都市文化の創出
- ・放水行動が昼夜の区切りとなり、「日中つけていたエアコンを夜には切る」という意識を誘発



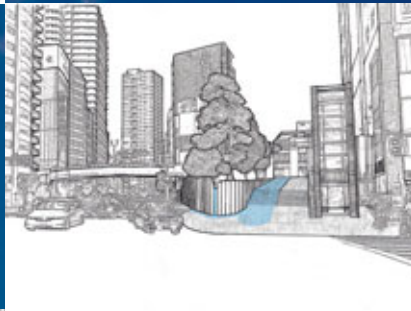
法円坂



龍造坂



榎木坂



松屋坂



瓦屋坂



中寺坂



高津坂

■榎木坂の計画



榎木坂は、榎木大明神の社と御神木のエンジュの老木が特徴的な坂である。

階段両脇を水の流路とし、小路地の趣を残しつつ、坂を挟む東西の敷地にポケットパークを計画する。ポケットパークは、七坂を巡る人々の休憩の場となるとともに上町台地の地形を感じる視点場ともなる。ハの字型に設置されたベンチは見知らぬ人どうしの会話を誘発し、人々の出合いを演出する。

